

巡礼に秘められた先人たちの思いにふれながら 辻原八十八カ所巡り



3月20日にしあわせ会（飯塚恒夫会長）主催の「辻原八十八カ所巡り」が開催されました。

茄子川村と千旦林村が合併し坂本村が誕生したのが明治30年。34年には旧溜池が竣工。35年には中央線が開通し、恵那、中津川駅が開業した。こうした時代を背景に、坂本北部地区の開拓事業が始まった。特に辻原地区においては、明治37年に名古屋市の材木商 加藤鎌吉、神谷宗八の両氏が辻原白山神社を中心とした広大な土地の開拓事業を始めた。大変な苦勞を伴った開拓事業も終わりに近づいたころ、地域の安全を祈願するとともに、できるだけ大勢の旧住民と新規移住者の人々が親睦と交流を深められるように「辻原八十八カ所巡り」の計画が進められたといえます。

当日は千旦林と茄子川の大字界にある一番札所から順に右に弘法大師像、左に四国八十八カ所のお寺の本尊、この二体が一對となって辻々に祀られている石仏を拜む「巡礼の旅」に。しあわせ会の江碓良彦さんと荻野隆三さんから開拓の歴史などの説明を聞きながら、終わってみれば、3時間、7.7km、約1万歩を歩きました。

コロナウィルスの終息を願い「祓い給え、清め給え」 疫病神を祓う送り神の風習



「辻原八十八カ所巡り」をする中でとても興味深い話を聞きました。辻原に今も伝わる「送り神(虫送り)」の風習です。『尾張 津島の天王は、昔から疫神を制御する大神として信仰されていた。その昔、津島の詞官堀田弥五郎という者が美濃に来て、その土地の人に殺されてから、その祟りによって悪疫が広く流行した。そこで、これを津島に送り返す心でこの「送り神」の祭事が始まった』と云われています。

祭事は、早朝、白山神社の境内に祀られている津島様を参拝した後、幣束を絶対に下に置かないように各家庭に廻す。各家庭では、その幣束を持って「払い給え、清め給え、守り給え、幸い給え」と唱え、家の中を祓い、疫病神を幣束に乗せて、隣の家へ渡し、最後の家は津島様に返す。午後になると、子どもたちと総代が津島様を参拝し、道中歌を歌いながら国境地蔵まで送って納めるものです。この祭事は毎年7月に行われます。(写真は平成21年当時に撮影したもの)



「坂本の記録写真集」より

誰でも気軽に楽しめるグラウンドゴルフで生きがいと健康づくり あなたも一緒にプレーしませんか？



3月25日に坂本北部体育館で「坂本でグラウンドゴルフを楽しむ会」の総会が開催されました。当会は平成22年に会員数57名で設立。今年、設立10周年を迎えました。高齢者の引きこもりを防止しグラウンドゴルフを通して生きがいと健康づくりを目的に平成22年度がんばる地域サポート事業の補助を受け活動してきました。現在では130名を超える会員を擁し、定例練習会の実施や会員相互の親睦と交流を深め技術の向上を図るため定期的に大会を開催しています。

当会では会員を募集中！年会費500円！北部体育館西側のグラウンドゴルフ場であなたのお越しを待っています。

新役員は次のみなさんです。（敬称略）

会長：長屋鷹彦 副会長：浅野 昇、多賀一雅 事務局：可知幸夫、佐々木康英、鈴木春枝
理事：土田 章、荻野忠代、近藤一良、田口澄子、渡辺正和、新井日出夫、荻野英二、戸村慶徳
千村初男、葛西丸次郎、小池路子、大塚三子、樋田勝二 監事：長谷川照義、原 保
顧問：赤尾喜作

きっと、楽しい出会いがあなたを待っています

坂本老人クラブ連合会役員改選 生き生きライフで 無理なく、楽しく、がんばろー

高齢期を楽しく生きがいを持って、安心して暮らしていくためには、健康で自立し、身近な仲間と支え合いながら住みよい地域づくりを進めていくことが必要です。坂本老人クラブ連合会では、マレットゴルフ、グラウンドゴルフ、ペタンクなどの健康推進事業や、各地域クラブで定期的にふれあいサロンを開くなど、楽しい事業を実施しています。老人クラブでは、会員絶賛募集中です。お住まいの地域の役員さんにお声をかけてくださいね。令和2年度の新役員さんが次のとおり決まりました。（敬称略）

◎各地域クラブ会長、女性部長

あさひ会：荻野忠代、熊崎千恵子 東光会：兼松鈴義、篠原三重子 はなの木会：小島国彦、林 好子
鶴寿会：長屋鷹彦、神谷君代 岩寿会：千村康雄、浅野教子 北隆会：江碕良彦、松葉和子

高砂会：小川建史、小池節子
睦会：大山 勝、堀スミ子
こぶし会：土田 章、志津さち子
若気会：田村和雄、仙谷信子
中部友の会：新田兼正、小椋照子

◎坂本老人クラブ連合会役員

会長：土田 章 副会長：長屋鷹彦、新田兼正
会計：田村和雄
女性部長：小池節子 副部長：熊崎千恵子

